

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 9月 6日 更新

事務事業名		図書館電算管理システム維持管理事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	3	教育の健康					所属部	教育委員会	課長名	栗木 清智
	施 策	10	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	境 真奈美
	施策の柱	39	生涯学習施設(環境)の整備					所属班	図書館班	(内線)	1505
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 8	事業連番 11164	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : ⑥			
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	図書館電算システムの維持・管理、利用者向けインターネット端末の維持・管理・現在の図書館運営は電算システムは欠かせないものであり、開館時より運用している。合併に伴い、両町のシステムを統合した。インターネットの普及により、蔵書の検索がホームページより行えるようなシステムを構築した。新システムでは蔵書の情報をインターネットに公開し、利用者に情報を公開している。合併時に導入した図書館システムの更新を平成25年3月に行い、サーバー方式からクラウド方式へ変更した。平成30年3月にシステム及び機器の更新を実施した。(学校図書館システムと切り離された。)
【業務の流れ】	システム会社と図書館(指定管理)との調整。システム更新業務(協議・契約等)
【主な予算費目】	委託料、使用料及び賃借料
【意見や要望】	更新に際し新機能を追加した。より充実した図書館サービスが図れる。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO) 図書館システムの維持管理、システムの安定稼働につとめた。 指定管理会社と図書館と協議し、更新を行った。		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) システムの安定稼働のための保守契約を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 登録者数	人	システム更新による使用料、保守料等の減
→ イ 蔵書数	点	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
図書館システム		→ ア システムの稼働時間
		→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
円滑な図書館運営を行うシステムの安定稼働を図る		→ ア トラブルの件数
		→ イ システムの停止時間
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
維持管理の事業のためトラブル件数等の指標とした。経年により若干増えたと予想した。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込
① 活動指標	ア 人		32,468	28,405	33,000	24,292	33,000	33,000	33,000	33,000
	イ 点		330,520	320,094	323,000	330,588	323,000	323,000	323,000	323,000
② 対象指標	ア 時間		2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920
	イ									
③ 成果指標	ア 件		6	6	0	5	0	0	0	0
	イ 時間		0	0	0	0	0	0	0	0
投 入 費 用	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計		千円	7,626	7,627	7,727	9,199	5,160	8,000	8,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人 件 費	正規職員従事人数	人	3	3	1	2	1	1	0
		延べ業務時間	時間	400	450	384	90	1,000	384	0
	(B) 人件費計		千円	1,485	0	1,529	356	3,984	1,529	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	9,111	7,627	9,256	9,555	9,144	9,529	0

事務事業名	図書館電算管理システム維持管理事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 大きなトラブルもなく稼働し、更新も完了した。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 S Eと図書館職員との定例会を月に1回行うなど連携体制を取り、不具合やシステムの修正等も早めに対応してもらうことでトラブルが回避できる。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 安定稼働状態を維持するための事業であり、向上余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 図書館独自のシステムのため統合等ができない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 図書館システムを稼働するための必要最小限の経費である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在委託で行っており、人件費の削減余地は限られる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 図書館システムを安定稼働するための経費であり公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 委託事業であり適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

小さな故障については、すぐに対応し安定稼働に努めている。システムについても、定例会等で積極的に要望し、改善を求めている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策